愛知県 がんセンター特集

愛知県議会議員
かわしま太郎 県政レポート Vol.23

愛知県がんセンターは、国立がんセンター創立2年後の1964年に都道府県立としては初めてのがんセンターとして開設され、今年で創立60周年となります。創立以来、愛知県がんセンターは病院と研究所が両輪となって診断・治療の革新を進め、また、がん医療・研究のリーダーを数多く輩出することで、愛知県のがん医療を牽引してまいりました。
これからも、研究所と病院が協働する総合がんセンターの強みを活かして、がんにならない、なっても安心して自分らしく暮らせる愛知県の実現に貢献すべく、最新・最良の医療の提供と最先端の研究の継続的推進を図ってまいります。
愛知県がんセンターの今後ますますの活躍にご期待ください。

愛知県議会議員
かわしま太郎

愛知県がんセンターについて

がんセンターは今年で創立60周年

がんセンターの歴史

- 2023年 名大全学と包括連携協定
- 2022年 特定機能病院として承認
- 2019年 がんゲノム医療拠点病院に指定
- 2018年 名大医学系研究科と包括連携協定
- 2017ー2019年 がんゲノム医療関連の個別化医療・リスク評価・がんゲノム医療センターを順次開設
- 2015年 バイオバンク事業開始
  地域医療連携・相談支援センター、緩和ケアセンター開設
- 2013年 外来化学療法センター業務開始
- 2008年 民間のPET-CT検査診療所の誘致、DPC（疾病別包括払い制度）対象病院
- 2007年 都道府県がん診療連携拠点病院に指定
- 2005年 外来化学療法センターの設置（20床）
- 2004年 地方公営企業法の全部適用
- 2002年 地域がん診療拠点病院、管理型臨床研修病院に指定、新研究所棟完成
- 2000年 特定承認保険医療機関として承認（H18終了）
- 1994年 外来棟、国際医学交流センター完成
- 1992年 新病棟完成（病床数500）
- 1988年 生物工学総合実験棟完成
- 1968年 皇太子殿下、同妃殿下（当時）行啓
- 1964年 愛知県がんセンター（病院・研究所）開設
- 1962年 国立がんセンター創立

大村知事と杉山総長による調印

大村知事と松尾総長による調印

愛知県のがん診療の中心的存在

都道府県がん診療連携拠点病院の役割を果たす愛知県がんセンター

- **がん医療の均てん化**を目的に始まったがん診療連携拠点病院の設置
- 厚労大臣が、中核的役割を担う病院として、**一県に一箇所“都道府県”がん診療連携拠点病院**を指定
- がんセンターが、愛知県内の4大学の附属病院を含む29ヶ所の拠点病院群の中核（2024年4月現在）

均てん化とは	均霑化（生物がひとしく雨露の恵みにうるおうように、の意）。全国どこでもがんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療技術等の格差の是正を図ること。

愛知県の中核としてがんセンターが果たすべき役割

さらなる貢献を目指して

1. **今ある最先端・最良のがん医療**を提供
2. **次の時代のがん医療**を研究開発する拠点機能！

県内の中核としての波及効果を!

- 波及効果で県内のがん医療の質的向上を牽引
- 最先端の研究力でがん対策に資する基盤情報を提供

中核としての機能を強化し底上げに貢献：連携中核病院A、連携中核病院B、連携中核病院C、…etc

県のがん対策立案への積極的貢献：がん対策、がん予防

フロントランナーとして自施設で提供

- 今の最新・最良を提供
- 次の時代のがん医療を研究開発

がんに関わる県内の中核として他を牽引

- 県内のがん医療水準の向上を牽引
- 最先端の研究力をもとに、愛知県のがん対策に資する基盤情報の提供

がんセンターの診療実績

全国がん診療拠点病院の診療実績比較

愛知県がんセンターの実績

肺がん	全国1位	県内1位
胃がん	全国4位	県内1位
大腸がん	全国2位	県内1位
乳がん	全国4位	県内1位

注1）出典：日本経済新聞（2021年8月31日）
注2）実績は、がん診療拠点病院等約400施設について、診断から5年後の生存率を1～4期の進行度の違いを調整し、全国平均が100となる指標「生存率係数」で比較

薬物療法（化学療法）の実績

世界が認めるがん薬物療法のトップランナーが率いるエキスパート集団

- 21世紀に入ってからのがん薬物療法（抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤等による内科的治療）の目を見張る進歩
- がんセンターの抜群の治療成績を支える**トップレベルの外科医と腫瘍内科医による高度な分業体制**
- 外来通院でのがんの薬物療法の実施件数：**県内1位、全国トップ5**の年間約3万件
- がんの新薬開発への貢献（治験）を通じた多様な治療選択肢の提供：**県内1位、全国3位**
- **がんゲノム医療**のエキスパートパネルを支える高度な知識と経験
- がんの薬物療法のさらなる進歩に貢献する**エビデンスの世界に向けた発出**

室圭　薬物療法部長、兼副院長

JAMA | Original Investigation
Panitumumab vs Bevacizumab Added to Standard First-line Chemotherapy and Overall Survival Among Patients With *RAS* Wild-type, Left-Sided Metastatic Colorectal Cancer
A Randomized Clinical Trial

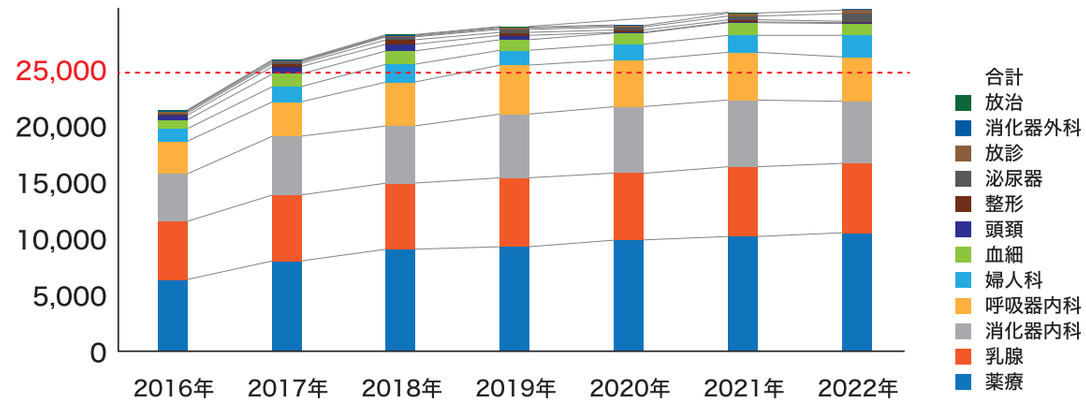
Jun Watanabe, MD, PhD; Kei Muro, MD, PhD; Kohei Shitara, MD, PhD; Kentaro Yamazaki, MD, PhD; Manabu Shiozawa, MD, PhD; Hisatsugu Ohori, MD, PhD; Atsuo Takashima, MD, PhD; Mitsuru Yokota, MD, PhD; Akitaka Makiyama, MD, PhD; Naoya Akazawa, MD; Hitoshi Ojima, MD, PhD; Yasuhiro Yuasa, MD, PhD; Keisuke Miwa, MD, PhD; Hirofumi Yasui, MD, PhD; Eiji Oki, MD, PhD; Takeo Sato, MD, PhD; Takeshi Naitoh, MD, PhD; Yoshito Komatsu, MD, PhD; Takeshi Kato, MD, PhD; Masamitsu Hihara, MS; Junpei Soeda, MD, PhD; Toshihiro Misumi, PhD; Kouji Yamamoto, PhD; Kiwamu Akagi, MD, PhD; Atsushi Ochiai, MD, PhD; Hiroyuki Uetake, MD, PhD; Katsuya Tsuchihara, MD, PhD; Takayuki Yoshino, MD, PhD

Watanabe J, Muro K, et al. JAMA 329: 1271-1282, 2023

JAMA® The Journal of the American Medical Association

この**1年間に日本から5報のみ**が発出された最重要な医学誌の米国医師会雑誌（JAMA）に掲載された論文

圧倒的ながんの薬物療法（化学療法）に係る実績

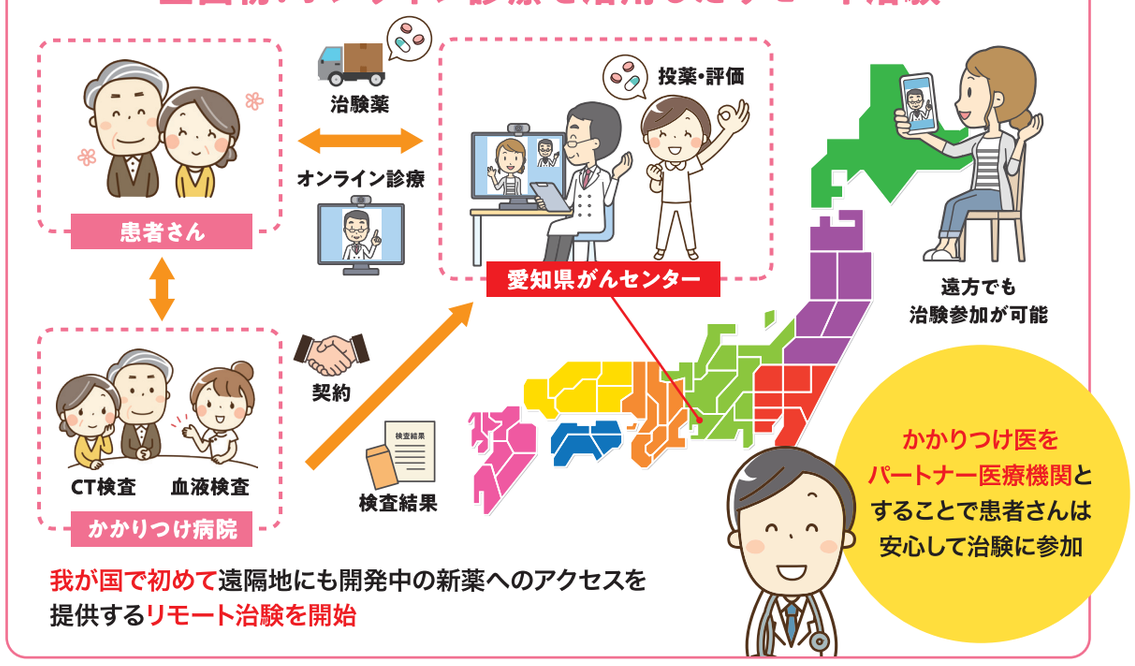


- **県内随一**の新規薬剤の開発のための治験への貢献
  ➡ 計235種類の薬物療法が新規登録中、或いは登録後追跡中（2023年8月16日現在）

新規登録中の治験件数の比較

	がんセンター	名大	名市大	藤田医大	愛知医大
全疾患を含む	79	48	25	46	13
がん	79	29	11	15	1

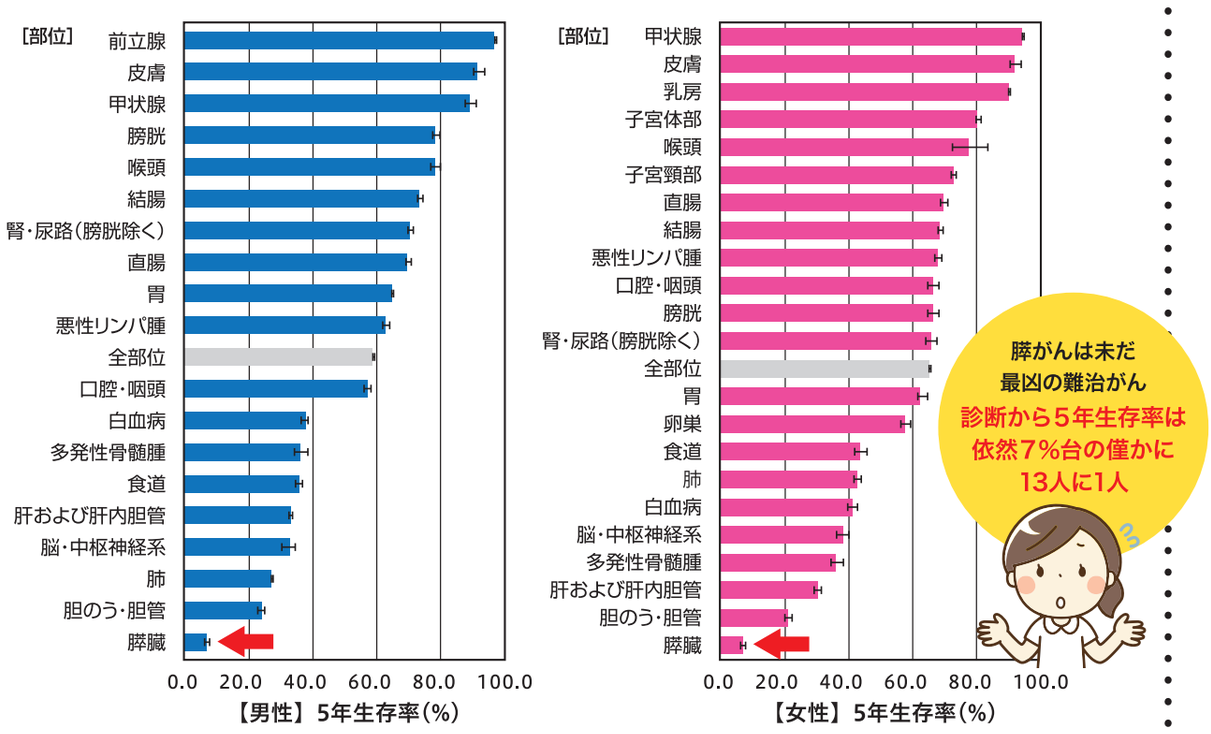
全国初!オンライン診療を活用したリモート治験



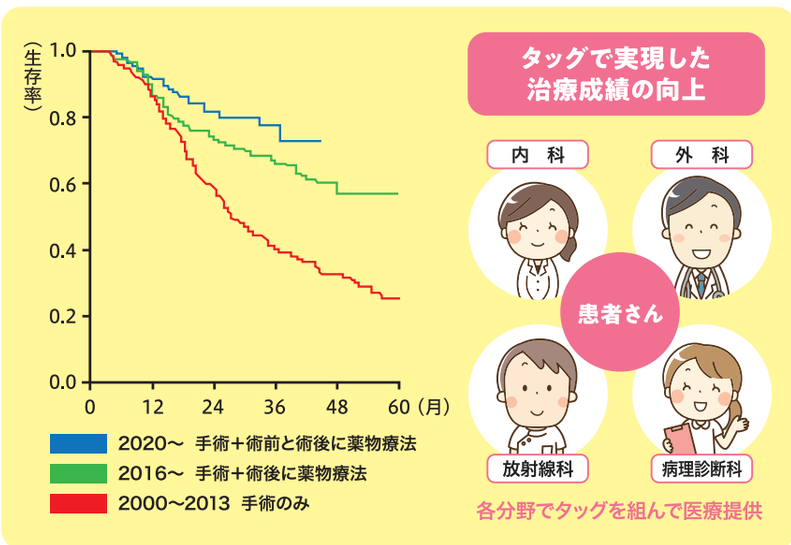
我が国で初めて遠隔地にも開発中の新薬へのアクセスを提供するリモート治験を開始

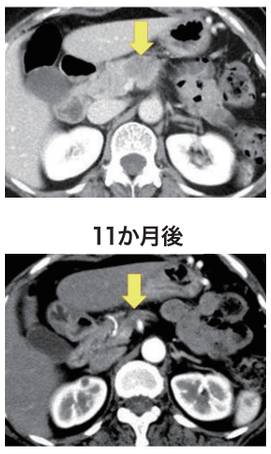
膵がんについて

最凶の難治がん、膵がんとの闘いの最前線に立つ



- 症状が出にくく早期発見が極めて困難
  - ➡ 膵がんの前がん病変となる膵嚢胞専門外来（**全国初、県内唯一**）を開始して**治癒可能な早期発見！**
- 解剖学的に外科手術が高難度で、高い技量が必要
  - ➡ 違いを生み出す**膵がん専門**の外科医チームによる**県内1位、全国9位の手術件数**（北は東京から沖縄まで、海外からも研修に）
- 転移・再発しやすく、手術だけでは予後不良
  - ➡ **薬物療法のエキスパートらと密接に連携**して新たな治療法を開発し、標準治療を変革した実績
  - ➡ 薬物療法で縮小させてから手術をすることで、進行がんで**切除不能と診断された症例が切除可能にも！**





食道がんについて

食道がん治療の変革を牽引するエキスパート集団

- 全国に12名しかいない食道がん低侵襲手術（ロボット支援や胸腔鏡）の技術認定審査委員が率いるエキスパート集団。
- 食道外科と薬物療法との密接な協力により、全国に先駆けた術前化学療法を導入し、治療成績を劇的に向上。
- 食道がん低侵襲手術の認定医は県内6名のうち5名は愛知県がんセンターで研鑽を積んで取得するなど、人材育成の拠点機能を果たす。

頭頸部外科について

全国屈指、県内随一の実績を誇る頭頸部外科領域のリーダー

- 県内1位、全国3位の手術件数を誇り、薬物療法との密接な協力関係を構築。国際共同治験への積極的な参画など次代の標準治療開発を牽引する頭頸部外科領域のリーダー。
- 県内の頭頸部外科専門医26名のうち18名が愛知県がんセンターで研鑽を積むなど、人材育成の拠点機能を果たす。

人材育成を担うがんセンター

愛知県がんセンターは高度医療の提供、開発、教育を実施する能力をもつ特定機能病院としての承認

- **高度の医療提供、研究開発、及び研修を実施する能力と、高度な医療安全管理体制**を備えた病院として、厚労省が入念な審査を経て全国に88病院を承認
- **県内には、5病院のみ**（がんセンターと4大学附属病院の本院）
- **全国のがんセンターでは、6病院のみ**

がん研究領域のリーダーたちを全国に輩出してきた病院・研究所

- 病院が、**全国に輩出した教授の数は、29名（平均2年に1人）**
- 研究所が、**全国に輩出した教授の数は、75名（平均毎年1.3人）**
  - ➡ 室長・部長職から、直接教授として転出したもの：43名
  - 研修生・研究員として薫陶を受け、他機関に転出後に教授に昇任したもの：32名

がんセンターによる
直接・間接の次世代の
養成への貢献は、
愛知県のがん
医療にとって不可欠

がんセンターでがん医療と研究の最前線を経験したリーダーたちがそれぞれの大学で教授として人材を育成

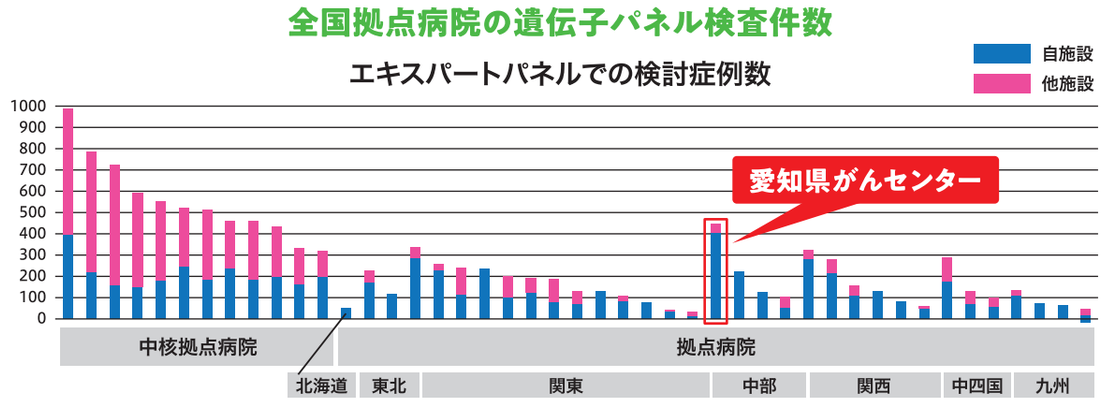
- 名　大
- 名市大
- 愛知医大
- 藤田医大
- 全国の病院・研究所

ゲノム医療に取り組むがんセンター

効果的ながんゲノム医療の遂行に必要なのは

- 暗号情報のようなゲノム解析の結果を、しっかり解読できる能力が試される医療
  - ➡ **臨床医だけでは手に負えない領域**まで踏み込む必要性がありエキスパートパネルには研究者が必要
    - ▶一般病院には不可能（研究者がいない）
  - ➡ **研究所をもつ総合がんセンターの優位性**をフルに発揮
- 日進月歩の“分子標的薬”などの新薬に対する、臨床医の深く広い知識と経験が試される医療でもある
  - ➡ がんセンターの病院は**がんの薬物療法の第一人者の集団**

全国拠点病院の遺伝子パネル検査件数



出典：厚生労働省「がんゲノム医療中核拠点病院等の指定案件について」
（集計対象期間：2020年9月1日～2021年8月31日）

国の「全ゲノム解析等実行計画2022」に東海3県下で唯一参画し、2万余りの遺伝子の全てとその隙間の領域を含む、全ゲノムの解析にもとづく検査を開始

最先端を走り続けるがんセンター

破壊的イノベーションを創出すべく新たに融合領域を設置

これまでも、これからも、次の時代のがん医療と予防を研究開発し続けることが、研究所と病院を併設する総合がんセンターとしての使命です。

愛知県がんセンター

病院
- 今ある最新・最良のがん医療を提供
- 次の時代の最新・最良のがん医療を打ち立てる使命
- 県内の中核としてがん医療に係る人材の育成と、県内のがん医療水準の質的向上を牽引

研究所

従来からの医学・生物学を基盤とするがん研究
- がん予防医療研究領域
- がん分子病因・病態研究領域
- がん医療創生基盤開発領域
- 共通基盤領域

異分野間の“化学反応”を醸成

情報、工学、化学などの異分野の研究
- 異分野融合イノベーション推進領域

名古屋大学（全学）との包括連携協定による

愛知県がんセンターにさらにご期待ください!

次の時代のがん医療を**研究開発できる能力**を発揮し続けることが、今の時代の患者さんに**最新・最良のがん医療を届ける力**になります。
がんセンターの創立以来、**将来を期待して県民の皆様からいただいてきた支援と協力**が実を結び、ゲノム医療の時代にさらに大きな花が開こうとしています。

これまでのご支援により県民の皆様の命と暮らしを守ることができる実力を持ったがんセンターに成長しています。
引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。

かわしま太郎 県政相談事務所
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。県政に関する疑問・質問もお気軽にお寄せください。
〒467-0813 名古屋市瑞穂区西ノ割町2-25　TEL 052-842-0014　FAX 052-842-0017　E-mail taro-kawashima@etude.ocn.ne.jp